

Title	新規事業への参入のための競争評価
Sub Title	
Author	西口美津子(Nishiguchi, Mitsuko) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第707号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0707

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新規事業への参入のための競争評価

新規事業への参入にあたっての事業分野の選択は、市場の魅力度（成長性及び収益性）と共に競争環境の激しさの程度で行われることが多い。ところが、競争については、“激しい”とか“おだやか”であるとか、数値的裏付けのないまま語られるのが現状である。

業界内の競争と収益性との関係について、M. ポーターは、産業組織論の立場から業界における5つの競争要因が長期的な収益性を決めるとしている。

本論文では、ポーターの言う競争の5つの要因と収益性との関係を明らかにするために、競争要因の数量化を次の2段階に別けて行なった。

i) 概念的なメジャーメントの開発

ii) オペレーショナルなメジャーメントの開発

そして、オペレーショナルなメジャーメントを使って、“業界の5つの競争要因が、業界の長期的な収益性を決める”というポーターの仮説を、エレクトロニクス業界の製品市場を対象に、重回帰モデルを設定することで検証を行なった。

その結果、収益性に影響を与える5つの競争要因のうち、新規参入の脅威が収益性に及ぼす影響以外は、ポーターの仮説は支持されなかった。

本論文で行なった、競争要因の数量化により、次のようなことが可能となる。

- 多角化等により新規市場に参入する際に、5つの競争要因のうち何がその市場の収益性に最も影響を与えているかを推察する手がかりとなる。
益性に最も影響を与えているかを推察する手がかりとなる。
- 多角化等により新規市場に参入する際に、5つの競争要因のうち何がその市場の収益性に最も影響を与えているかを推察する手がかりとなる。
- 従来、業界の専門家やコンサルティング会社といった人的情報源に頼っていた競争の激しさの程度について、客観的な数値を付与することで参入すべき市場選択の助けとなる。